

事例  
5

# 家庭内暴力を繰り返す 不登校中学生への支援

背景や要因

保護者の精神疾患  
経済的困窮

## 1 気になる状況

相談内容

中学1年生男子  
家庭内暴力と不登校

経緯と現状

本人が小学5年生の時、両親は離婚した。離婚後間もなく、母親は仕事を退職した。その後、生活費が底をつき、祖母宅で祖母との同居を始めた。

本人は小学6年生時から不登校となり、中学校進学後も、その状況が続いている。担任等が家庭訪問すると、本人は居室に閉じこもり、会えないこともある。

母親や祖母が登校を促すと、本人は心が不安定となって家庭内暴力へと発展することもあり、母親が駐在所へ駆け込み、助けを求めたこともあった。

学校

SSWrを  
要請

SSWr

- 相談の詳細を確認するため学校を訪問し、担任等から情報収集を行った。
- 保護者からSSWr訪問の承諾を得られるよう学校に依頼した。
- 担任の家庭訪問に同行し、家庭環境と保護者の様子を確認した。

SSWr

学校にケース会議開催を提案

- 参加者の選定や連絡・調整について助言
- 会議にも参加し、支援策について助言

## 2 ケース会議

### アセスメント（課題の背景や要因の見立て）

本人について (生育歴、学校や家庭での様子など)	家族について (保護者・兄弟姉妹等の状況など)	その他 (経済状況、地域社会との関係、家庭の様子など)
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 両親が離婚後、不登校になる。</li> <li>● 基本的な生活習慣が身に付いていない。</li> <li>● 会話によるコミュニケーションが苦手で、気に入らないことがあると、暴れることで感情を表現している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 母親は精神疾患を長年に渡り患っている。</li> <li>● 母親は、通院が不定期なため体調が安定せず、本人に対して食事や生活のリズム等、基本的な生活習慣に関する養育が十分されていない。</li> <li>● 家事は祖母が行っている。</li> <li>● 二人の妹は登校することができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 収入は、祖母の年金のみである。</li> <li>● 準要保護の申請がされていない。</li> <li>● 近隣に頼れる親類等はいない。</li> </ul>

考えられる背景要因

- 母親と医療機関との結びつきが弱く、適切な治療を受けることができていないと考えられる。
- 母親からの適切な養育を受けていないことから、基本的な生活習慣が身に付いていないと考えられる。

現在行っている学校の対応

- 担任 …… 週一回程度家庭訪問を行い、各種便りや学習プリントを提供している。
- 教頭 …… 月一回、教育委員会へ状況の報告を行っている。

### プランニング①（課題解決に向けた目標の設定）

長期的な目標

- 母親を支援することで、本人の生活のリズムが整い、安定した家庭生活を送ることができる。
- 本人の暴力行為が減り、適応指導教室等に通うことができる。

短期的な目標

- 担任と会話によるコミュニケーションができる。

学校からの依頼で家庭訪問を行い家庭状況を把握すると、本人だけでなく母親にも継続的な支援が必要ながることが分かり、医療機関や障害者相談支援事業者と連携を図りながら母子それぞれに対応した事例です。

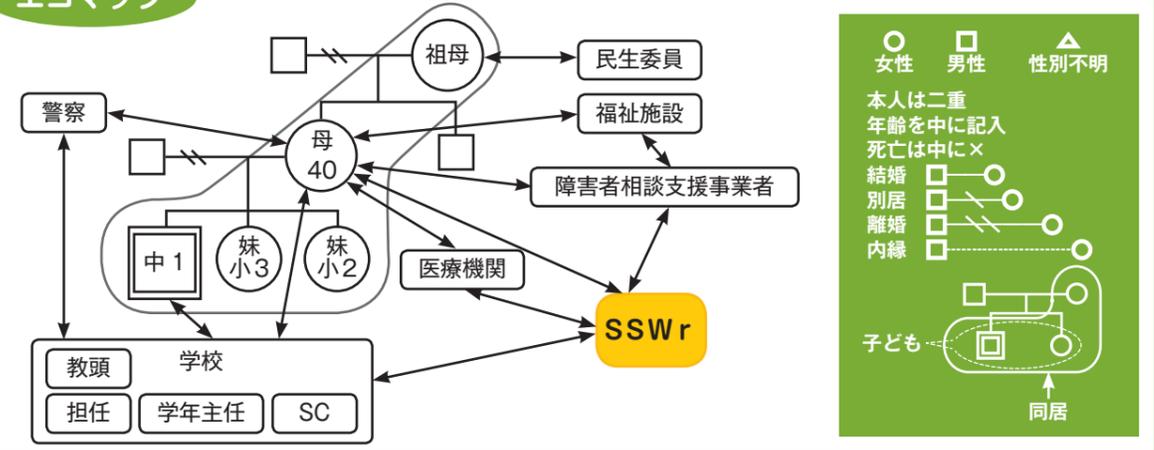
対応のポイントは、ケース会議等で情報を共有し、役割分担を明確にしたことです。本人に対しては、会話によるコミュニケーションで気持ちを表現できるように、担任とSCが対応しました。また、母親に対しては、SSWrが病気や就労に対する困り感に寄り添い、医療機関や障害者相談支援事業者の支援が得られるように、つなぐ役割を担いました。その結果、母親の体調が安定するとともに本人にも落ち着きが見られ、家庭内暴力が減りました。

三年間継続して関わりを持ち、根気強く対応したことにより、本人は高校への進学に、母親は福祉的就労につながりました。



SSWr

## エコマップ



### プランニング② (具体的な手立てと役割分担の決定)

担任・学年主任

- 定期的な電話連絡や家庭訪問を行い、本人との接触に努め、信頼関係の構築を目指す。その後、本人の意志を尊重しながら学習支援を行う。

教頭

- 本人が適応指導教室へ通室できるよう、連絡・調整を行うとともに、別室登校に向けて校内体制を整備する。
- 準要保護の申請を教育委員会へ行う。

SC

- 学校と情報の共有に努め、母親及び本人の求めに応じ、カウンセリングを行う。

SSWr

- 家庭訪問を行い、母親に寄り添いながら課題を一つ一つ解決に向けていく。
- 医療機関と連携し、福祉的な制度を活用できるよう支援を行う。
- 母親の体調が安定してきたら、障害者相談支援事業者につなぎ、就労支援を行う。

## 3 その後の状況

- 担任と本人の会話によるコミュニケーションが可能となり、中学1年生の三学期から、月二回SCによるカウンセリングを受けることができるようになった。
- 本人と妹は準要保護児童生徒の認定を受けることができた。
- 支援途中で母親の体調が悪化し、三か月間の医療保護入院となった。医療機関及び障害者相談支援事業者と連携し、入院期間中及び退院後の関わりを継続して行った。その結果、体調が徐々に安定し、週二日から開始した福祉的就労も、週五日できるようになった。
- 母親に対して、自立支援医療申請を行ったことにより、定期的な通院が可能となった。
- 母親の体調が安定してくると、本人の表情が和らぎ、暴力行為が減り、中学3年生の一学期途中から、週に数日、適応指導教室へ通うことができるようになった。